

平成 22 年 6 月 18 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320110

研究課題名（和文） 琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究

研究課題名（英文） Comprehensive research on relationship between nature
and human activities around the Lake Biwa

研究代表者

水野 章二（MIZUNO SHOJI）

滋賀県立大学・人間文化学部・教授

研究者番号：40190649

研究成果の概要（和文）：

滋賀県内全域の考古学発掘調査報告書を網羅的に収集・精査して、開発と河川・琵琶湖との関連などに留意しながら、古代・中世遺跡の成立・推移・消滅の過程を整理した。琵琶湖湖岸環境に関する情報を多く含む安治区有文書などの諸史料の調査・撮影を進めるとともに、明治期の地籍図を撮影・収集した。また大中の湖周辺など各地で共同調査を実施し、共通認識の獲得に努めるとともに、メンバー各自の視点から琵琶湖の歴史的環境に関する研究を進めた。

研究成果の概要（英文）：

Comprehensive data was assembled from excavation reports to determine patterns of establishment, transition, and disappearance of archaeological sites during the ancient to medieval periods around Lake Biwa, with special attention on the relationship between rivers and the lake and agricultural development. Included in the data were historical documents such as the "AWAJIKUYUU-MONJYO" and the Meiji Era "Chiseki Zu" which were examined and photographed. Research on the historical environment of Lake Biwa was advanced by collaborative efforts in all localities, such as around Lake Dainaka, through attempts at consensus as well as through the individual perspectives or opinions of the members.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,800,000	1,740,000	7,540,000
2007年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2008年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
総計	15,600,000	4,680,000	20,280,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：歴史的環境、琵琶湖、内湖、地籍図、中世遺跡

1. 研究開始当初の背景

琵琶湖の環境研究はこれまでも関係諸機関などでなされてきたが、環境史をテーマに県内に拠点を置く主要研究機関である滋

賀県立大学・滋賀県立琵琶湖博物館・滋賀大学の研究者が協力して、総合的に研究を進める企画はこれまでにはなかった。また内湖などの具体的なフィールド・空間に即して、

文献史学・考古学・地理学・民俗学などの研究者が共同調査を実施し、史資料の共有化を進めながら、環境史の共同研究を行うことも少なかった。

琵琶湖の内湖は環境利用という面で特筆すべき役割を果たすとともに、環境変化の影響を受けやすく、人間の利用形態の歴史の変遷を明確に把握できるという特長を有する。内湖の消長は、湖底遺跡の存在から推定されている琵琶湖の水位変動などの問題を解く鍵にもなると思われ、湖岸の歴史的環境と人間の関わりを検討する最良の切り口となる。しかし従来はそのような認識は乏しく、地理学などの蓄積はあるものの、内湖に注目した歴史学的な研究はほとんどなされていない。

内湖をめぐる問題に焦点をあて、多方面からの史資料の収集・分析や合同調査・研究などの具体的作業と討論を通じて、新しい環境史研究のスタイル・方法を構築する必要がある。

2. 研究の目的

琵琶湖集水域は完結性の高い地理的・歴史的空間で、京都に近く、農・林・漁業や水陸の交通・流通などの社会的分業を高度に発達させた。各種の文献史料や発達した村落を母胎とする民俗資料にも恵まれており、伝統的な景観・環境もよく保存されているなど、環境史研究にとって最適のフィールドである。

琵琶湖には戦前には40あまりの内湖が存在し、湖岸には陸域と水域がなだらかに入れ替わる推移帯（エコトーン）が広がっていた。内湖は流入河川・湖岸流・湖水面変動などの営力によって、浜堤が水面を閉鎖して形成されるが、水深は1～2・5メートルほどと浅く、環境変化の影響を受けやすい。しかし今津・木津・堅田などの琵琶湖を代表する

津は、内湖を船溜まりとしてその浜堤上に発達したのであり、また安土城や大溝城が内湖に囲まれて築造されていたのをはじめ、城郭の立地などにも大きな影響を与えてきた。内湖はまた漁労や狩猟・採集の場として、湖岸に生きる人々にとって生産的価値の高い重要な空間となってきたが、戦後にその多くが消滅し、現在では多様な生物の生息空間・水質浄化機能など、多方面からその役割が再評価されて、保全が進められている。

内湖はこのように多様な生業の場であると同時に、流通・交通などの拠点となってきたが、水位変動などによってダイナミックに消長を繰り返した。本研究では、歴史的に大きく変容していく内湖に焦点をあて、琵琶湖の歴史的環境の変化と人間の関わりの具体的な姿を複合的な視点から明らかにする。

3. 研究の方法

内湖の問題を中心に、琵琶湖岸の環境史に関する史資料の収集と整理、相互批判に基づく共有化を進める。

(1) 琵琶湖岸の環境変化と人間の関わりを示す考古遺跡の発掘調査報告書は膨大な量に及ぶが、考古学以外の研究者には活用が困難であるため、関係する報告書を精査して、発掘成果を整理し直し、湖岸に立地する各遺跡の成立・推移・消滅の全過程がわかるように内容を再構成して共通の資料とする。

(2) 湖辺集落や港津の立地、土地利用や漁業、エコトーンなどに関わる文書史料を収集し、整理・分析する。滋賀県内外の図書館・資料館・博物館などの所蔵文書の調査を進めて、環境史関係史料の収集・集成を図り、活用する。

(3) 琵琶湖の湖岸環境を直接示す資料である近世の村絵図および明治初期の地籍図の所在確認を行い、撮影を進めるとともに、CD

化して利用の便を図る。

(4) 共通のフィールドで共同調査・研究を組織する。湖西の旧今津町の内湖周辺や湖東の大中の湖周辺などを主要対象に総合調査を実施し、文書史料や考古資料の検討とともに、水利・地名・地割などの歴史地理学的調査や、生業・民俗行事などの民俗調査を行う。あわせてメンバー全員で研究論文集を執筆する。

4. 研究成果

(1) これまで刊行された滋賀県内の発掘調査報告書を網羅的に収集・精査して、古代・中世遺跡の成立・推移・消滅の過程や条里地割施工との関係がわかるように発掘成果を整理し直し、開発と河川・琵琶湖との関連などに留意しながら、遺跡立地とその変遷の再検討を進め、県内古代・中世遺跡全体のデータ整理を完了した。

(2) 津田内湖に面する南津田村文書（国文学研究資料館所蔵）の調査を進めて琵琶湖の環境に関する文書を選び出し、その一部をマイクロ撮影した。また近世から続く葎卸問屋である西川嘉右衛門家文書（近江八幡市）の調査を進め、琵琶湖の内湖環境に関する文書を選び出してマイクロ撮影した。同じくヨシ帯などの利用・管理をめぐる周辺村落との紛争など、琵琶湖の湖岸環境に関する情報を多く含む史料群でもある安治区有文書（野洲市）のうち、中・近世文書の調査を実施し、絵図類を含め、近世までの全点の撮影を行った。それとともに中世漁業史料などの重要史料を多く伝える長命寺文書（近江八幡市）や大島奥津島神社文書・沖島共有文書（近江八幡市）の調査・収集を行なった。

(3) 近江八幡市・旧能登川町・旧安土町・旧今津町・旧高月町などで、琵琶湖の湖岸環境を直接示す資料である明治期の地籍図の所在確認とデータ収集を行い、近江八幡市では

専門家による写真撮影を行った。それらの地籍図は、CD化して利用の便を図った。

(4) 大中の湖や沖島、大島奥津島神社・長命寺周辺地区（以上近江八幡市）、旧西浅井町塩津地区、彦根市荒神山西部、野洲市安治地区など対象に、共同の現地調査を実施するとともに、メンバーそれぞれの視点から、琵琶湖の歴史的環境に関する個別研究を進めた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計24件）

(1) 東幸代、近世における琵琶湖舟運の構造、市場史研究29、査読有、2010、291—12

(2) 佐野静代、水辺の生業が織りなす重要文化的景観、東アジア内海文化圏の景観史と環境1、査読無、2010、82—100

(3) 佐野静代、古代・中世におけるヨシ群落の利用と管理、水と環境 人と水1、査読無、2010、143—178

(4) 橋本道範、寺辺殺生禁断試論、東アジア内海文化圏の景観史と環境1、査読無、2010、145—169

(5) 橋本道範、日本中世の魚介類消費と一五世紀の山科家、琵琶湖博物館研究調査報告25、査読有、2010、7—16

(6) 橋本道範、日本中世における水辺の環境と生業、史林92—1、査読有、2009、4—35

(7) 水野章二、仰木の棚田と山門領仰木荘、棚田学会10周年記念誌、査読有、2009、74—75

(8) 佐野静代、水辺の環境史と「二次的自然」をめぐって、歴史科学196、査読有、2009、32—41

(9) 林博通、大津京の川原寺式軒瓦、古代瓦研究3、査読有、2009、21—49

(10) 牧野厚史、半栽培から住民参加へ、半栽培の環境社会学、227—247、2009

(11) 市川秀之、村の場、日本の民俗6、査読無、2008、31—112

(12) 牧野厚史、ヨシ帯保全における自然と人間との適度な関係、滋賀大学環境総合研究センター研究年報5—1、査読無、2008

(13) 牧野厚史、ヨシ保全と住民との関わり、とりもどせ！琵琶湖の原風景、査読無、2008

(14) 佐野静代、古墳時代の水田と灌漑水利、アジアの歴史地理2、査読無、2008、232—242

(15) 林博通、琵琶湖湖底遺跡・尚江千軒遺跡の考古学的調査と地盤工学的調査、人間文化22、査読無、19—26、2008

(16) 牧野厚史、農山村の動植物をどうするのか、むらの社会を研究する、査読無、2007、109—116

(17) 水野章二、中世の水害と荘園制、再考荘園制、査読無、2007、123—155

(18) 市川秀之、大和のムラ・近江のムラ、奈良女子大学文学部紀要研究教育年報4、査読無、2007、75—85

(19) 林博通、琵琶湖湖底遺跡・下坂浜千軒遺跡の調査、淡海文化財論叢2、査読無、2007、120—129

(20) 市川秀之、米原市志賀谷におけるオコナイ行事の変容、淡海文化財論叢2、査読無、2007、253—259

(21) 市川秀之、村落社会における歴史伝承の成立、京都民俗25、査読有、2007、85—99

(22) 佐野静代、日本における環境史研究の展開とその課題、史林89—5、査読有、2006、99—126

(23) 佐野静代、近江国筑摩御厨における自然環境と漁労活動、国立歴史民俗博物館研究報告113、査読無、2006、85—108

(24) 宮本真二・中島経夫、縄文時代以降における日本列島の主要淡水魚の分布変化と人間活動、動物考古学23、査読有、2006、39—54

[学会発表] (計5件)

(1) 宮本真二、環境史からみた災害、立命館地理学会、2009年11月28日、立命館大学

(2) 水野章二、里山・棚田の歴史と活用、棚田学会10周年記念シンポジウム、2009年7月18日、東京三越劇場

(3) 東幸代、近世中後期の琵琶湖舟運、市場史研究会2008年春季大会、2008年6月7日、アープしが

(4) 橋本道範、日本中世における水辺の環境と生業について、史学研究会例会、2008年4月19日、京都大学文学部

(5) 橋本道範、環境史の可能性について、大阪歴史科学協議会3月例会、2008年3月15日、大淀コミュニティセンター

[図書] (計4件)

(1) 市川秀之、歴史のなかの狭山池、清文堂、2009、254

(2) 水野章二、中世の人と自然の関係史、吉川弘文館、2009、344

(3) 佐野静代、中近世の村落と水辺の環境史、吉川弘文館、2009、348

(4) 前畑政善・宮本真二、鯰(ナマズ)イ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水野 章二 (MIZUNO SHOJI)
滋賀県立大学・人間文化学部・教授
研究者番号：40190649

(2) 研究分担者

林 博通 (HAYASI HIROMITI)
滋賀県立大学・人間文化学部・教授
研究者番号：30275177

市川 秀之 (ITIKAWA HIDEYUKI)
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：80433241

東 幸代 (AZUMA SATIYO)
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：10315921

塚本 礼仁 (TUKAMOTO REIZI)
滋賀県立大学・人間文化学部・講師
研究者番号：10315278

牧野 厚史 (MAKINO ATUSI)
滋賀県立琵琶湖博物館・専門学芸員
研究者番号：10359268

橋本 道範 (HASIMOTO MITINORI)
滋賀県立琵琶湖博物館・主任学芸員
研究者番号：10344342

宮本 真二 (MIYAMOTO SINNJI)
滋賀県立琵琶湖博物館・主任学芸員
研究者番号：60359271

佐野 静代 (SANO SIZUYO)
滋賀大学・環境総合研究センター・准教授
研究者番号：80273829